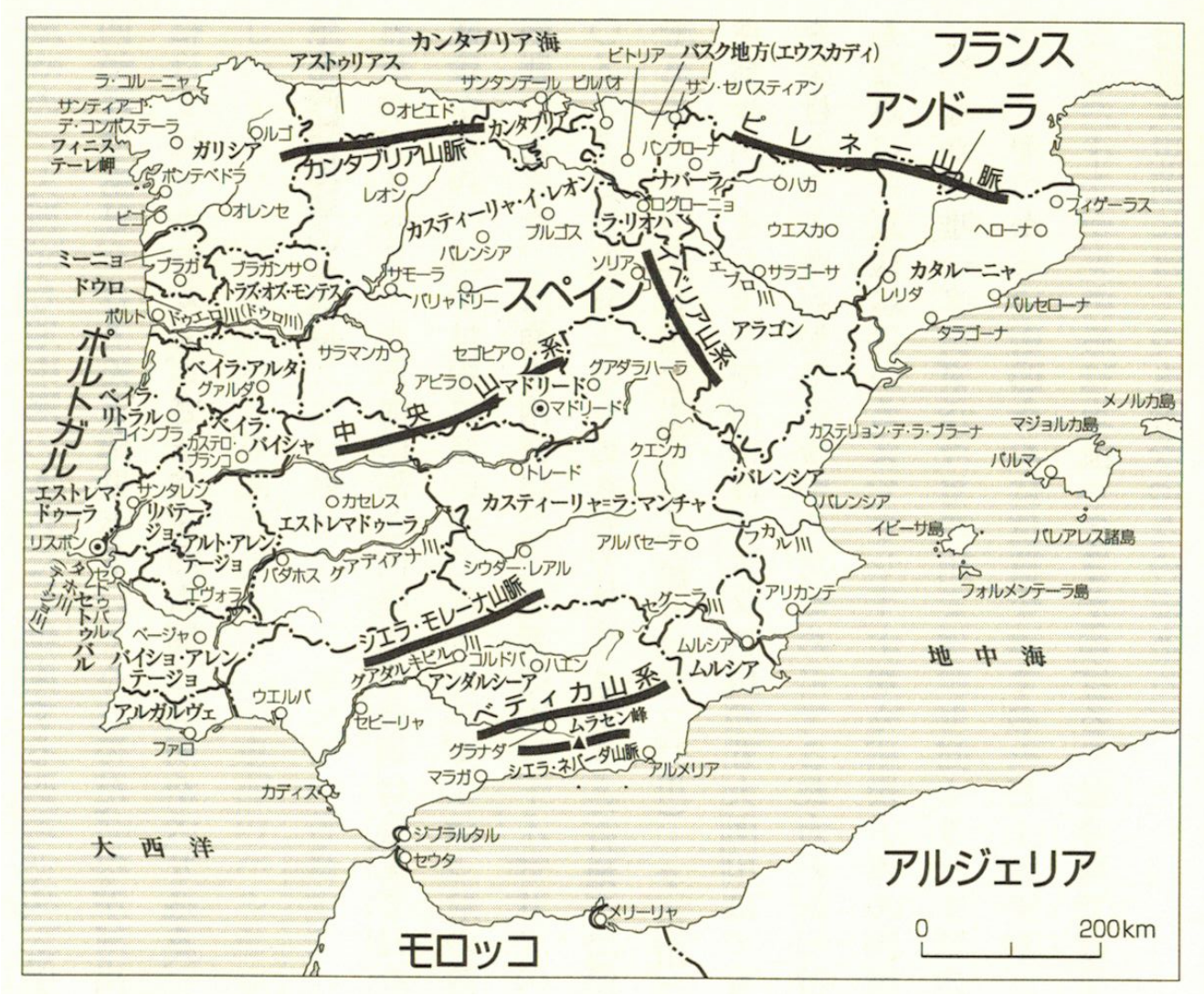
「絵画で綴る、スペイン史」

2015.10.17　早稲田応化会中部支部交流会にて　西川和子

【1】はじめまして、スペイン　・・　地図でご紹介



イベリア半島の地形　　（立石編「スペイン・ポルトガルの歴史」2000 年、山川出版社より）

【2】スペインの歴史をざあっと辿ると

5 世紀　イベリア半島に西ゴート王国建設

711 年　ジブラルタル海峡を通ってイスラム教徒侵攻、あっという間にイベリア半島の大半を征服

722 年　コバドンガの戦いで、レコンキスタ（国土回復運動）開始

1492 年　イベリア半島最後のイスラム教徒の国、グラナダ王国陥落。イサベル女王登場

1517 年　ハプスブルク王家がスペインに入る（～1700 年）

王家に好かれたヴェネチアの巨匠、　★ティツィアーノ

「あのギリシャ人」という意味の、　★エル・グレコ

「ラス・メニーナス」を描いた宮廷画家、　★ベラスケス

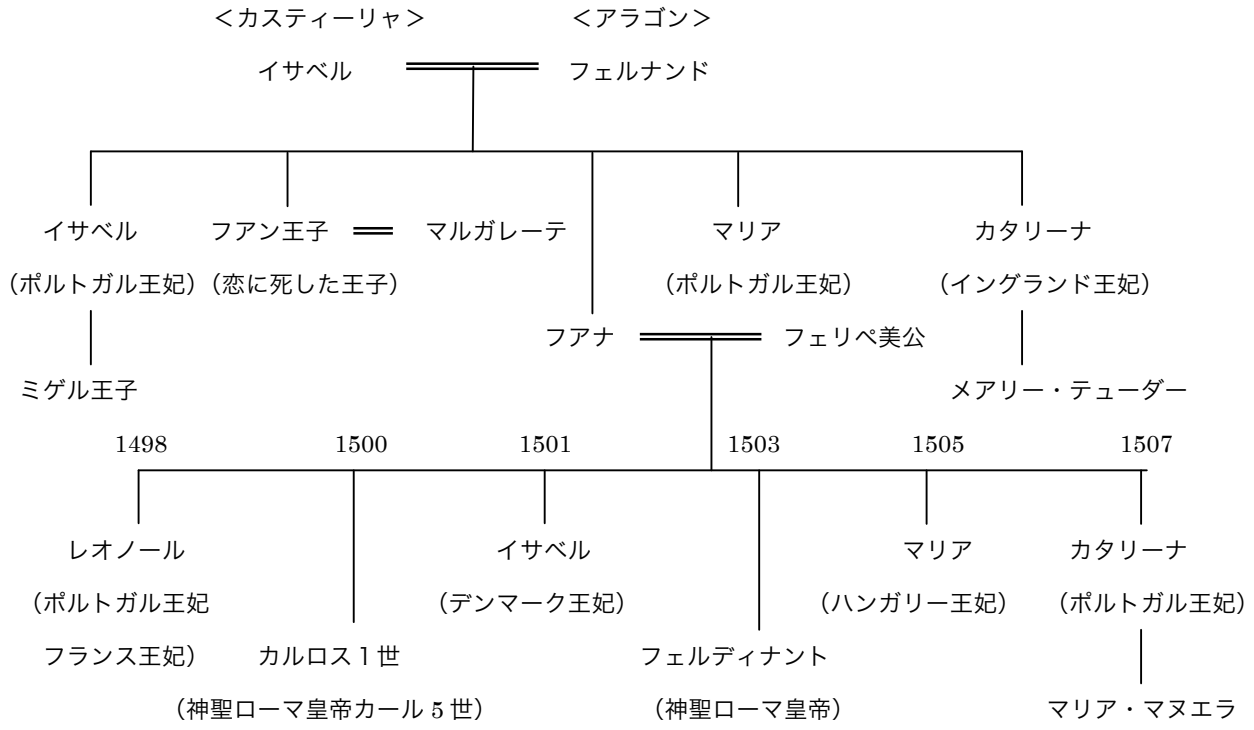
1700 年　ハプスブルク王家は途絶え、フランスからブルボン王家が入る

宮廷画家　★ゴヤ　の目に写った時代とは

【3】カトリック両王と狂女王フアナの時代

「カトリック両王」とは、ローマ教皇よりイサベルとフェルナンドに与えられた称号。
イベリア半島最後のイスラムであるグラナダ王国を終焉させ、財政、警察、異端審問、騎士団を王の手に、そして大貴族や高位聖職者の持っていた権利を削ぎ、ひとことで言えば、中央集権化を進めた。

フェルナンドの結婚政策とは、「憎きフランスを我が王子と王女で囲もう」・・1 人の王子と 4 人の王女。
（フェルナンドは、「アラゴンの狐」と呼ばれていた。マキャベリの「君主論」のモデルのひとり）



ところが、運命の悪戯が重なり、カスティーリャ王位は次女フアナに。どんな番狂わせが起きた？
夫フェリペ美公の父はハプスブルク家のマクシミリアン 1 世だったことから、ハプスブルク家が登場。

【4】ハプスブルク家の時代　（1517～1700）

スペイン王カルロス 1 世　　1500 年に誕生
フェリペ 2 世　　・・エル・グレコ、ただし、王とはセンスが違った
フェリペ 3 世　　・・政治を寵臣にまかせる「寵臣政治」の始まり
フェリペ 4 世　　・・ベラスケスが宮廷画家、王とベスト・マッチ
カルロス 2 世　　1700 年に死去　（スペイン・ハプスブルクの終焉）

1．カルロス 1 世（神聖ローマ帝国皇帝カール 5 世）　（1500-58、在位 1516-56）

・まわりまわってやってきた広大な領土。これを治めるのに旅から旅の生涯。

・敵は 3 方向。フランス、異教（オスマン・トルコ）、異端（プロテスタント）、戦いの日々。

・芸術を愛し、特にティツィアーノを好み、「宮廷伯」「黄金拍車の騎士」の称号を与える。

・同時代に、フランス王フランソワ 1 世(1494-1547)、イングランド王ヘンリー8 世(1491-1547)。

2．フェリペ 2 世　（1527-98、在位 1556-98）　慎重王

・首都をマドリッドに(1561)。サン・カンタンの勝利を記念して巨大修道院エル・エスコリアルの建設。

・4 回も結婚・・ポルトガル王女、イングランド女王、フランス王女、オーストリア王女と。

　　フランス王女は、息子の婚約者だった　→　ヴェルディのオペラ「ドン・カルロ」が誕生。

・レパント海戦(1571)に勝利、総司令官は異母弟。アルマダの海戦(1588)でイングランドに敗北。

3．フェリペ 3 世　（1578-1621、在位 1598-1621）

4．フェリペ 4 世　（1605-1665、在位 1621-65）　学芸王

・広範な趣味、絵画、演劇、建築、離宮。政治は寵臣オリバーレス伯公爵任せ、財政は逼迫。

・幸運なことに、ベラスケスが宮廷画家に。数多くの肖像画を残す。

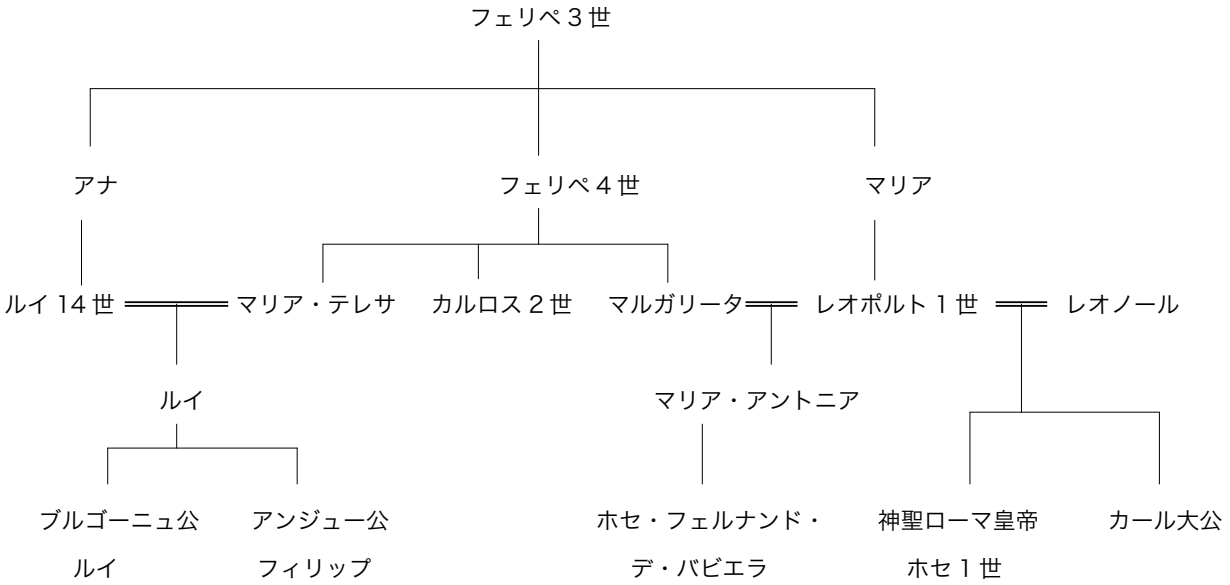
5．カルロス 2 世　（1661-1700、在位 1665-1700）

・子ども時代から病弱。周囲の予測を裏切り、40 歳近くまで生きた。

・あまりに濃い血を受け継いだため、子が生まれない。どんな「血」なのか？

【5】スペイン継承戦争　（1701-1714）

次期スペイン王を巡って、スペイン継承戦争が勃発。ヨーロッパ全体を巻き込む。



【6】ブルボン家の時代　　（1700～　途中、途切れながらも、現在まで）

1．フランスから王様がやって来た。フェリペ 5 世　（1683-1746、在位 1700-24、1724-46）

・昔の名前は「アンジュー公フィリップ」、フランスの太陽王ルイ 14 世の孫。

・アラゴンの特別法を廃止して、カスティーリャとアラゴンを制度上もひとつとする。業績大。

・復位の頃から精神が乱雑に。着替えず、洗顔・ひげ剃りせず。いつも煙草、上着は粗雑。昼夜逆転。

・強かった妃のイサベル・デ・ファルネーゼも、晩年、同様の症状に。

2．フェリペ 5 世の息子たち 3 人が次々と王に。

・ルイス 1 世（1707-24、在位 1724）

・フェリペ 5 世が復位

・フェルナンド 6 世（1713-59、在位 1746-59）

妃バルバラはポルトガルの王女、彼女の音楽教師がドメニコ・スカルラッティ。

バルバラ亡き後、父母と同様に精神に異常をきたす。

・カルロス 3 世

3．カルロス 3 世　（1716-88、在位、ナポリ・シチリア王 1735-59、スペイン王 1759-88）

・母はフェリペ 5 世の 2 度目の妃イサベル・デ・ファルネーゼ、強い母の画策でナポリ王に。

・いろいろ仕事をした。

産業の振興、マドリッドの都市整備（アルカラ門、シベーレス広場、プラド通り）

服飾取締令（長外套と鍔広帽子の禁止）、イエズス会の追放

・父母、兄、皆晩年に精神を病んでいるのを知っていた。そうならないように、規則正しい生活と運動を心掛け、狩りに毎日出かける。今日は○頭、捕まえた、などと得意げに獲物自慢したらしい。

4．カルロス 4 世　（1748-1819、在位 1788-1808）

・父に似ず、凡庸、大食漢、格闘技が得意、手先が器用、善良、妃の言いなり。

・父に似たのは、毎日狩りに行く、毎日同じことをする、くらいか？　側近はこういう。

「王は毎日 15 分間を政務に割いている。あとは、旋盤工、武器製造人、狩人をしている」

・政治は、宰相マヌエル・ゴドイ任せ。しかし、実は、ゴドイは、妃マリア・ルイサの恋人？

5．最後に、ゴヤの「裸のマハ」、「着衣のマハ」のモデルは誰？　を追求してみましょう。

西川和子　著作一覧

『スペイン宮廷画物語』『スペイン十八世紀への招待』『狂女王フアナ』『スペイン　フェリペ二世の生涯』

『スペインの貴公子　フアンの物語』『オペラ「ドン・カルロ」のスペイン史』『ギター前史　ビウエラ七人衆』

『宮廷人　ベラスケス物語』　（以上、彩流社）

『スペイン謎解き散歩』（中経の文庫　KADOKAWA）、『ビジュアル選書ハプスブルク帝国』（共著、新人物往来社）

【別紙】　　2015.06.05 のメールにて

特許に関わる質問事項

１．海外での事業拡大に向け、海外での知財戦略も重要となる中、海外での特許の権利化は、国により判断基準が異なると思います。特許権利化に向けた国ごとの留意点につき、ご教示いただきたい。

２．日本メーカーが出願した特許について、日本、海外それぞれでの出願数、登録率について、業種別の系統的なデータがあればご教示いただきたい。

３．特許により、技術の参入障壁をつくるために、注意する点、最も効率的な方法は何か？

４．権利行使をして裁判に至るケースは、どの技術分野が多いか？また、具体的な判例を紹介いただきたい。

５．権利行使をして裁判に至ったケースにおいて、大凡の裁判期間、及び判決に特徴などあれば紹介いただきたい。

６．迅速で的確な審査を行うために審査官の方が日頃取り組んでおられることがあればご教示いただきたい。

７．特許流通市場が活性化されると未利用特許の価値、特許の知的財産としての価値がより高くなるように思うが、現在の市場状況、課題などがあればご教示いただきたい。

以上

ご参考までに

１．特許庁ＨＰより

ホーム ＞ 制度・手続 ＞ 外国知的財産権情報 ＞ 外国の知的財産制度・知的財産庁に関する情報 ＞ 各国産業財産権法概要一覧表

また、「制度・手続」の中には、ホーム ＞ 制度・手続 ＞ 法令・基準 ＞ 基準・便覧・ガイドライン などもあります。

２．特許庁ＨＰより

ホーム ＞ 資料・統計 ＞ 統計資料 ＞ 特許行政年次報告書 ＞ 特許行政年次報告書 2015 年版～130 年の産業発展を支えてきた産業財産権制度～

４．５．最高裁判所ＨＰより

最高裁判所 ＞ 裁判例情報 ＞ 知的財産裁判例集

http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search7

事件番号がわかっていれば、そのまま入れる。

最近の判決を知りたければ、「期間指定」として、いつからいつまでを入れる。

特定の技術のことを知りたければ、語を入れる。例えば、「粘着剤　and　ポリオキシエチレン」など。

判決の読み方

・請求

・事案の概要

・原告の主張（原告主張の取消事由）

・被告の主張（被告の反論）

・当裁判所の判断

（・結論）

７．特許庁ＨＰより

特許庁ＨＰの「サイト内検索」に、例えば「未利用特許」などと入れてみてください。